

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	国際農業研究協議グループ(CGIAR)拠出金 (任意拠出金)		担当部局庁	国際協力局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和46年度開始		担当課室	地球規模課題総括課		課長 松浦 博司		
会計区分	一般会計		施策名	VII-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項		関係する計画、通知等	CGIARからの要請				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際的な農林水産業研究に対する長期的かつ組織的支援を通じて、開発途上国における食糧増産、農林水産業を今後も持続させつつ生産性改善を図ることにより住民の福祉向上を図ることを目的として設立されたCGIARの傘下の各研究センターにおいて実施されている研究活動の支援を通じて、途上国の貧困削減、持続可能な開発に貢献することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	CGIAR傘下の15の各研究センターは、各国の農業研究機関、民間セクター、NGO等と協力して途上国の経済発展・福祉向上のための農業(林業・水産業を含む)研究を実施している。具体的には、それぞれの研究センターが研究対象とする農作物の品種の遺伝資源を保存・評価し、各国の気候や貧困層の栄養、貿易等の観点から適正な品種を開発し、各国に提供しているほか、病虫害対策、高知の保全など天然資源の管理や保全、政策形成のためのデータ分析提供、開発途上国の専門家養成のための研修を実施しており、これらの事業に個別にイヤマーク拠出を実施。また、これらの事業を行う各センターの運営経費等にノンイヤーマーク拠出を実施。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	726	692	442	356	302	
		繰越し等	542	-	-	-	-	
		計	-	-	-	-	-	
	執行額	1,268	692	442	356	302		
	執行率(%)	100%	100%	100%				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (各年度)
	収集した遺伝資源(種子)の特性を評価し、これらを掛け合わせて新品種(高生産性・耐干ばつ・耐病害虫性等)を開発している。新しい知見は論文として公表しており、論文の公表数を成果指標とする。	成果実績	本数	1,592	1,748	1,753	2,000	
		達成度	%	79	87	88		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動実績			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	野生種を含めた遺伝資源(種子)を継続的に収集・保管しており、遺伝資源保有数を活動指標とする。	活動実績 (当初見込み)	品種数	不明	706,424	746,611	750,000	
単位当たり コスト	383千ドル/1論文		算出根拠	673,000千ドル(平成22年度CGIAR全体予算額)/1753(論文公表数)=383千ドル				
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	国際農業研究協議グループ(CGIAR)拠出金	355,760	302,196	拠出額減額				
	計	355,760	302,196					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>我が国はTICADプロセスにおいてアフリカの農業開発(コメの生産倍増等)にコミットするほか、2008年の北海道洞爺湖サミット以来、他の先進諸国とともに世界の食料安全保障の実現にもコミットしているが、食料安全保障における農業研究の重要性は近年高まっている。様々な異なる開発途上国の自然条件に適応した品種改良や天然資源の管理や保全等の農業研究は、二国間援助の中で全て実施することは困難であり、豊富な遺伝資源やグローバルな知見を有するCGIARに対する支援を通じて実施する方が効率的・効果的である。2009年以降、CGIARは組織・活動内容・活動の評価など、業務の見直しを行っているところであるが、これらの取組状況は理事会や総会において審議されており、我が国としても引き続き加盟国とともに参加して積極的な関与を図っていく必要がある。事業内容については引き続き適切に把握し、事業が効果的に実施できるよう注視していく必要がある。</p>		
抜本的改善	<p>拠出額減額</p>		
	<p>上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)</p>		
<p>(縮減)拠出額減額</p>			
<p>補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)</p>			